

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600197		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	グループホーム ベルエポック		
所在地	帯広市川西町西1線47番地6		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JivovsoyCd=0174600197-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.ご家族・地域と一緒に・・・グループホーム職員は家族ではありません。職員だからできることもあれば、家族だからこそできることもあります。また地域の人だからできることもあります。だから・・・ご本人の生活の質を考えたとき、私たちだけではなく、ご家族・地域と一緒にご本人の暮らしを考え、作ることを大切にしています。ただご家族それぞれこれまでの関係も違えば協力できる範囲も違います。そこを理解しながらご家族をチームの一員としての意識づけ(相談・フォロー含む)を大事にしています。地域の方には、交流の機会等で施設のケアや利用者の様子等を知っていただき、支えていただいています。

2.日常におけるOJT充実 交代勤務のため、全職員が揃う機会がありません。その分日常の様子を記載する日誌はもちろん、職員間で情報発信・意見交換しあうチームノートを活用しながら職員個々の仕事の状況や悩み・特性等を把握しつつ職員間で相談やアドバイスし合い、チーム総力でケアできるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、緑に囲まれた自然豊かな農村地帯に位置し、母体法人が運営する総合福祉施設が集積した一画にあり、利用者同士行事を通じて馴染みの関係を作ることができ、職員も同じ関わりを持つことにより事例を共有しながら質の高いケアに取り組んでいる。管理者を始め職員は、常に明るく、楽しくを心がけて利用者に接しており、利用者との談笑の輪の中に自然と溶け込んで、常に利用者目線で一律ではなく個別対応を重視して、無理強いないようにして「自発性」を引き出すケアに努めている。利用者は食材買物に同行し、調理や後片付けを職員と一緒にしている。忘年会には地域住民、家族が多数参加交流し、「介護の日」に合わせて施設見学会を開催して、地域住民の理解を深め、「共に支え合う関係づくり」に取り組んでいる。職員は研修へ積極的に参加し、日常の介護を通じての実践教育でケアの力量の向上を図りながら、おむつ「ゼロ運動」などに取り組んでいる。運営推進会議は行事などに合わせて開催し、ほとんどの家族、地域住民代表が出席して、会議の後には一緒に食事をとり事業所への理解と親交を深めている。グループホームだからできる専門的視点に立った、サービスとしての介護とその向上を目指して日夜取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームは法人の「基本理念」、高齢者部門の「ケア理念」、更に「グループホーム基本理念」に基づいて運営。法人理念には「地域に還元する」事が明記されており、建物の中で職員だけでケアを提供するのではなく、家族も含めた地域の力を借りて、あるいは地域に還元して実践を続ける意識をもっている	職員は理念である「豊富な知識と経験を活かし」「その人らしさを大切に生活の場を」「利用者と共に向き合いながら築いていく」を実現するために、サービス向上を意識しながら、家族や地域の力を借りて毎日の介護を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問やGHとの交流、生活支援ハウスやデイサービス・特別養護老人施設との行事の参加など行っており、日常的にもこれらの施設や総務に「遊び」にでかけている。また町内会への出席を求められたが、具体的にはなっていない。	敬老会などの地域行事に積極的に参加している。農業高校の生徒が定期的に訪れて、事業所の畑を耕してくれる。母体法人と合同で施設見学会を企画・実施して地域住民のグループホームへの理解を高めており、また地域に参加を呼びかけて11月1日の介護の日に施設内でイベントをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の御家族や入居希望される人からの相談が増えている。特に、ケアマネジャーは？色々な施設(特養やGHなど)があるが、特色は？という初期の相談が多い。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議では入居者の状況や職員の想いを報告。その後会議だけで終わるのではなく、入居者職員と一緒に焼肉、流しソーメン等の食事会を実施。実際に雰囲気盛り上げて頂いている。食事会の参加は誰でも可能にしている。	家族、地域包括支援センター職員、地域代表等が出席して2ヶ月毎に実施し、事業所の運営について報告したり情報を提供して、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。実施日には食事会を開催してジギスカンなどを利用者と一緒に食べながら、ホーム内の生活を知ってもらい、家族からの意見を引き出している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	敬老会には、市高齢福祉課長に出席して頂いた。また新聞や年賀状の送付をしている。	事業所から積極的に帯広市担当課に様々な情報を提供したり、不明の点を問い合わせたりしながら連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止は既に意識付いている。実際に拘束に至る事例は無い。そこから進展し、職員の行動ひとつで「制限」につながることを、職員同士で気を付けている。	拘束の弊害と身体拘束が例外であるという認識は浸透している。現在、徘徊事例は無く、身体拘束はしていない。言葉による拘束をなくすよう職員は日頃から心がけている。母体法人の委員会活動が活発で研修会の機会も多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底	⑥と同様、虐待はどこにでも潜んでいることを自覚することを職員間で意識する。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用	研修会での報告学習により、日常の現場でそれを具体的に身に着けていくことを心掛けている。⑥⑦の項目に結び付くよう、日頃の会話(学習)に盛り込む。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について、利用者や家族に十分な説明を行い、さらに個別の状況を検討しつつ、理解・納得・同意を頂いてから契約をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付係を施設内に配置しているのと同時に、第三者委員会を設け、利用者家族より苦情を言いやすい配慮をしている(利用規約時に説明している)運営推進会議の委員には全家族になって頂く。「共に支え合う関係づくり」を心掛け、職員との一体感を協力して頂いている。	運営推進会議の開催を家族に通知し、ほとんどの家族が出席して、希望・提案・要望が汲み上げられている。職員は家族の来訪時に時間をかけて会話を交わすように努めて、意見・要望を聞き出している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議という場よりも、日常の会話の中で、意見交換や検討を行う。	管理者は、職員が意見を言いやすい雰囲気の日頃から作り、会議や日常何でも記載しているベルノートを通じて意見交換を行って、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各理念を基に、GH独自の職責を各々が自主的に思考する環境を作る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課で個人の目標を掲げ、それをGH内では公表し、個人の目標を全体で達成できるような独自の取り組みをしている。それにより、よりOJTの活性化を期待している。		
14		○同業者との交流を通じた向上	各研修会その他、法人内GHと入居者の対応や待機者リストの共通化など、現状と照らし合わせながら、話し合いを設けた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・後に関わらず、話をする事を大切にしている。その中で不安や楽しみ等今後に役立てる事は、積極的に職員間で協議、共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	双方が十分に説明、話し合う場を大切にしている。GHとしても、入所者または家族の方とも「何を大切にしたいか?」「こんな事をしていきたい」と話し合う事を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方共に十分に納得できるよう、説明、話し合う場を大切にしている。GHとしても、入所者または家族の方とも「何を大切にしたいか?」「こんな事をしていきたい」と話し合う事を大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が何をしてみたいのか?どうしたら本人が輝くのか?を念頭に置き対応しています。家事等の日常的な活動も含め一緒に行き、それらからアドバイスを頂いたり、一緒になって考えたりしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の事で困った時悩んだ時等、積極的に連絡を取ったり、家族からの要望を意識的に聞く事はもちろんだが、日常のケアと一緒に参加して頂く事を意識的に継続している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人や知人の面会も増えてきた。友人との外食の機会も検討している。また、生まれ育った家や入居前の家など、訪問している。	馴染みの美容師が定期的に訪れる。職員は、利用者の古きよき時代(ベルエポック)の思い出を会話の中から聞き取るようにして、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互い助け合ったり、顔なじみの関係になるよう、そっとお手伝いをさせて頂いたり、見守りながら支援する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では医療機関への継続入院で契約終了となった方が数名。その後も病院を訪ね状態を確認したり、医療相談室のSWIに情報提供する等支援が途切れないよう意識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一律対応でなく、個別細やかな対応をしている。	利用者との会話や家族の情報から一人ひとりの意向を把握して、職員全員で話し合って実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族だけでなく、ケアマネや利用していた施設など、多くの状況を聴取するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調や気分、様子等常に見守り、把握するように努め、その日に合った活動や行動をとって頂くようにしています。こちらから無理強いしないよう、本人と相談しながら行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時や状態等の変化があった際、すぐに職員間で意見を出し合うようにしています。本人・家族の意見等も踏まえて、計画に反映しています。モニタリングは、季刊ごと・半年ごと・年間事など、工夫しながら、変化を把握することと同時に、職員自身の振り返りにも役立っている。	ベルノートを初め各種記録を基にして、本人・家族の意見も踏まえて職員で話し合って、介護計画を作成している。モニタリングを行い、日常の変化を反映させて定期的に見直すのが、必要があればそのつど見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日誌や個人記録への記録は継続的に実施出来ている。その記録をさらに活用できる方法を模索している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療・介護・相談など、各種が切れ切れにならぬよう、GH独自の職員意識づける。そのための幅広い知識と情報が必要であり、経験を活かすトレーニングをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運営推進委員によって、行事日にお化粧品ボラなどをして頂いた。今後、茶話会などを企画し、つながりを強化していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に受診している。またそれ以外にも、当苑の主治医にも適時相談する。	家族の選択を尊重している。かかりつけ医への受診は職員が同行しているが、事業所医療機関に受診している利用者もいる。母体の関連施設の医師がいつでも対応できる体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	安易に看護職員に判断を求めることだけでなく、身体不調なども予見しながら、事前の対応をする。職種にこだわらず、個々人の状態を把握し、即対応できる体制をつくる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、できるだけ毎日面会に出掛けている。その際、病院職員とも情報を交換し、家族とも状況を共通化する。病院との説明にも同席する。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明と共に、特養申込みの案内し、万が一の急変時などにも、不安を軽減し対応できるように話し合っている。また各々の主治医からの話を逐一報告し、家族にも常に状態を把握して頂いている。	契約時に重度化の際に事業所ができることを説明して、納得してもらっている。現実化したときは、早めに家族と相談の機会を持って、医師の意見を参考にしながら、家族が最善の決定ができるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED使用方法や簡単な応急処置の学習はしているが、その発見時、いかに冷静に対応できるか、他の職員へ迅速に連絡するか、を確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施。一番手薄になる夜勤帯等の火災、地震を想定して実施。	職員が少ない夜間も想定して年2回消防署が立ち会って避難訓練を実施している。結果を振り返り、職員間で話し合っって問題点の改善に努めている。災害に備えて屋外で使えるストーブを用意している。	夜勤をする職員一人一人が夜間の避難に自信が持てるよう訓練し、災害時に、地域住民の支援が得られるような体制を構築するよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保守や秘密事項厳守を前提に、一人ひとりに合わせた会話や会話の援助と共に、話の内容や周囲の状況を組み合わせながらホールや居室を活用し安心して頂く。個人情報の取り扱いには職員のみで、持ち出し厳禁。	人生の先輩として敬い、豊富な知識や得意なことを日常生活で活かしながら、誇りを持って暮してもらえるように努めている。特に言葉使いや語調で利用者を不快にさせないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自発性」(やってみる、やりたい!)を引き出すケアを目標に、それぞれに合わせた会話や活動を計画する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	言葉や表現だけに留まらず、本当の気持ちや願いを探り、その人だけの「価値ある日」を目指す		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容の実施はもちろんのこと、散髪で理容師には、髪型などの相談を受けてもらっている。特に女性が多いので、鏡に向かい綺麗になる喜びを失わないように援助。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・調理の過程で、何か一部でもできる(やって頂く)事を考えている。本人の希望だけでなく、会話に出てきた昔のなつかしい物を取り入れる事も多くなってきた。献立は一緒に考えたり、買い物には同行して頂く。一貫しているのは「食事(過程も含め)と一緒に楽しむ事」。	食事は最高の楽しみごとのひとつと考えて、献立を一緒に考えることから始めて、利用者の好みを日頃から聞いて積極的に取り入れ、買い物や準備・後片付けと一緒にして、職員と会話をしながら楽しく食べられるように配慮している。事業所の敬老会では串カツを作り、揚げたり・盛ったりしながらみんなで食べて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いもあるので、好んでもらえる飲み物を勧めている。補食としておやつ各種も用意している。また糖尿病の方は、食事量や糖分のバランスには気を使っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	寝る前には必ず義歯の洗浄をしケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ「ゼロ運動」に取り組み、日常の中で職員同士の相談等を大切にして、排泄の自立に努めている。	おむつ「ゼロ運動」に取り組み、失敗もあるが適切な声掛けによってトイレでの自立排泄ができるよう日々取り組んでいる。失敗をしてもやさしく接して、プライバシーに留意しながら手早く清拭できるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を中心に、便秘予防を図る。現在、慢性的な便秘な方はいない。下剤服用は、一名。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者個人の状況に合わせて入浴。快適な入浴のために、最近は職員も選択する(一部)。その人にとっての「入浴」を考える。	基本的には日時を固定しないで、1週間に2回は入浴する。嫌がる時には時間をずらして再度声掛けしている。浴室での転倒防止に職員は取り組み、転倒事故は起きていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のその時の表情や状態を推測すると同時に、日誌やノートにより、それまでの状況を把握し、その日の無理のない安心できる計画を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医が一人ひとり違うため、むしろ日常の様子を伝えて、薬を適時調整してもらっている。臨時薬や新薬の服用方法を確認し、伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りでも、皮むき・味付けなど、作業を細分化し、役割作りをしている。それをすることで、「昔のエピソード」等を引き出せるように配慮する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜や紅葉見学には、全員で出掛けると共に、外食や買い物など、個別の対応をしている。また通院などで出掛ける際には、帰りに食事をしてくる事がある。去年は、自宅や親族の家を訪問して、家族に好評だった。	散歩をしながら店でアイスを買って食べて楽しんでいる。買い物に行きたいとの利用者の要望に可能な限りすぐに応えている。季節の花見や紅葉祭りに出かけるなど、五感刺激やストレス解消のために外出の機会を多く作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	【金銭】を認識されている方がごく一部。しかし、「何か買いたい！」と言う時には、立替などして「お金で買い物する」感覚を取り戻して頂きたいと思っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使える状態にある。遠距離の方は、電話や手紙でのやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが居場所を作っており、音楽番組ではみんなで歌い始める場面も出てきた。むしろ、職員はその輪に入れて頂く感じもある。玄関脇に写真など掲示し、誘って見に行く等動きを作れるようにしている。	ホームの天井が吹き抜けで居間は明るく、湿度温度調節に配慮している。季節の花が置かれ、壁に行事の写真・季節の飾り物が貼られている。利用者は、思い思いに自分の居場所でくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースは、雰囲気的に2つのブロックに分けられ、さらにローカにも椅子やテーブルを配置し、小集団・個別などのスペースとして活用。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	最近の事故などで、ライターなどの持ち込みは控えて頂いています。入居の際は、できるだけ普段の寝具や家具、身の回り品をお願いしています。	思い出の写真や使い慣れた家具・雑貨を持ち込んでもらい自宅の部屋と同じ雰囲気になるように努めている。利用者・家族と話し合っ、居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の際の手すりや車椅子の通路を確保する。特に夜間は、歩行不安定な方のために、手すりとして椅子を配置する。		